９年間の中で最も説得力のある文章を書こう～「種の保全」について考える～

場　所　３年４組教室
授業者　教諭　岩下　嘉邦

１　単元終了時に期待する生徒の姿

自らの文章をより説得力のあるものにするために，資料となる文章からそれぞれの目的に応じた問いを見出し，対話しながら内容面と形式面の工夫を学び取り，自分の表現に柔軟に活かしていくことができる生徒。

２　指導観

３年生では，「読むこと」領域の学習において，「あなたにとって読書とは？」という年間を通した言語活動に取り組んでいる。本単元では「読む／書く／話す・聞く」という各領域の学習を関連させ，最終的に「あなたにとって説明的文章とは？」を考える学習を行いたい。教科書教材『絶滅の意味／中静徹』を学習の中心に置き，「絶滅危惧種の保全」という社会的事象について生徒たちが深く考え，９年間の学びを活かしながら文章にまとめていく学習を目指す。

（１）　自己調整のサイクルを意識した単元構成の工夫（「見通し」を重視して）

単元の導入として，『〈正義〉の生物学／山田俊弘』という本に書かれている「私たちは絶滅危惧種を保全すべきか？」という問いを提示し，これに答える形で文章を書き，筆者に送るという課題を提示する。教材に出会う前に自分なりの文章を一度まとめておくことで，文章の内容面・形式面に対する課題意識をはっきりさせ，文章と出会った際にそれぞれの問いが立ち上がりやすい状況を作る。また，生徒に見通しを持たせるために，それぞれで学習の問いと学習計画を考える場を設定する。１時間レベルでは，ワークシートに「使えそうな見方・考え方」を記入する欄を用意しておき，そこを記入した上で自分の考えの形成にうつらせるようにする。さらに，理科で生物の絶滅に関する内容知を学び，その上で国語科の授業に繋げるという単元の構成にしている。これにより，「見通し」の場において重要な「課題を自分事とする→問いの発見」という過程の一助としたい。

（２）　論証・対話モデルを活用した学び

国語の学習では，「根拠＝文章」「理由＝その根拠からどうしてその理由が言えるのか」ということで，自分の考えを持つ際には一貫してこのモデルを意識させている。本単元でも，それぞれが立てた問いを解決する際に，論証モデルを意識して考えを形成させる。また，対話モデルに関して，本時では探究型の対話を生徒主体で進める授業を展開する。基本的に教師は板書のみを行い，後は生徒たちで話を進めていく形式で行いたい。対話モデルのステップを意識することで，ただ単に自分の考えを発表し合うだけでなく，互いの考えを吟味し合い，より質の高い考えに高めていく学びを実現させたい。そのためには，これまでに行ってきた「話す・聞く」領域での学びを活用させていくことが必要である。

３　指導計画（９時間扱い　本時５/９）

次	時	各時間の目標	学習活動	評価の内容と方法
事前		【理科】	・生物の絶滅について学び，絶滅危惧種について調べ，種の保全に関する課題意識を持つ。	※今回の教材のテーマとなる生物の絶滅について理科で学び，単元の「見通し」に繋げる。
1	1	・課題に関するそれぞれの考えを持つ。	・「絶滅危惧種を保全する必要はあるのか？」を哲学的に考える。	思判表(書) 今回の課題に関して，自分が伝えたいことを明確にする。
	1	・説明的文章の学習経験を生かして，批評文を書く。	・「絶滅危惧種の保全」をテーマとした批評文を書いてみる。	思判表(書) 表現の仕方を考えるなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。
2	1	・それぞれの学習の見通しを持つ。	・『絶滅の意味／中静徹』を読み，それぞれで問いと計画を立てる。	思判表(読) 文章の構成や論理の展開，表現の仕方に着目して問いを立てる。
	1	・それぞれで考えを深める。	・各自で問いの解決を行う。	思判表(読) 文章の構成や論理の展開，表現の仕方に着目して問いを解決する。
	1 本時	**・話し合いを通して，互いの考えを深め合う。**	**・「この文章から学べることは何か」という課題で全体交流を行う。**	**思判表(読) 筆者のものの見方や考え方について考え，文章の構成や論理の展開，表現の仕方について評価する。**
3	2	・説得力のある批評文を書く。	・学んだことを生かし，自分の批評文を修正・改善する。	思判表(書) 学んだことを生かし，文章全体を整える。
	1	・代表作を選ぶ。	・研究者に送る批評文(学年で 10～20 本)を合意型の話し合いで選ぶ。	思判表(話) 進行の仕方を工夫し，互いの発言を生かして合意形成する。
	1	・説明的文章を読む意義を考える。	・「あなたにとって説明的文章とは？」に関する考えをまとめる。	知技(言) 読書が自分の考えを広げることに役立つことを理解する。
並行		【英語科】	・「絶滅危惧種の保全」について考えたことをまとめ，発表する。	※英語の学習でも「絶滅」というテーマについて考えることで，より内容面の理解が深まるようにする。

4　本時の指導計画

（1）目標

『絶滅の意味／中静透』から学べることを話し合う活動を通して，文章に表れている筆者のものの見方や考え方について考えるとともに，文章の構成や論理の展開，表現の仕方について評価し，自分の文章に活かせる要素を学び取ることができる。

（2）展開（本時５/９）

過程	時間	学習活動 （◇予想される生徒の発言）	指導上の留意事項 （学習活動の目的・意図，内容，方法など）
導入	8分	1　前時の振り返りをし，本時の学習内容を確認する。	・２名の生徒を指名し，前時の学習を振り返るスピーチを行わせる。 →「話すこと」の年間指導の一環であるとともに，学級全体の振り返りの場でもある。
		課題 ： この文章から学べることは何か、探究的に話し合おう。	
		○内容面・形式面どちらにも着目したい。 ○今回の目的であれば，探究型の話し合いだ。 ○全体の話し合いの前に，もう一度自分の考えを整理して，グループで話しておきたい。	・学習の目的と方法を再確認する。 →それぞれの文章の質を高めるための話し合いであり，そのためには探究型のモデルで話し合っていくことが大切である。
展開	35分	2　課題について，学級全体で探究型の話し合いを行う。 〈ステップ①：分かりやすく説明しよう〉 ○「人間への恩恵」という主張のために筆者は４つも具体例を出しており，納得できる。 ○具体例の意図について，リョコウバトは数が多いことで衝撃的だし，アマミノクロウサギは日本の例で身近に感じられるから。 ○主張の後に「想定される他者への反論」を入れたのは，筆者がより多くの読者を納得させようとしているからだ。 〈ステップ②：自分の考えを磨こう〉 ▲「人間の役に立つから」という主張は，少し自分勝手すぎて納得できない。 ▲文章が長すぎるので，21 段落以降は無くても良いのではないかな。 〈ステップ③：それぞれの結論を出そう〉 ○「人間の役に立つ」という考えに，「生命の尊さ」という側面もプラスすれば納得できそう。 ○「人間の役に立たない生物は確かにいる」という反論は，自分も考えた。やはり「想定される他者への反論」は必要だ。	・司会となる生徒を一人決め，生徒主体で話し合いを進めていく。 →教師は基本的に板書のみを行う。必要だと感じた際には，参加者の一人という立場から質問したり，意見を出したりすることもあるが，その回数はできる限り。 ・それぞれが解決した問いに関する考えを発表し合うとともに，それに対して質問したり反論したりしながら吟味し合っていく。 →文章の構成や論理の展開など，これまでに学んできた「読む・書く」（説明的文章領域）の見方・考え方を発揮させる。現段階では，必要に応じて教師による価値付けも行う必要があると考える。 ・探究型の対話モデルのステップや，ルール＆テクニックを意識して話し合いを行う。 →「話す・聞く」の学習で積み上げてきた話し合いに関する力を発揮させる。 ・必要であればペア活動やグループ活動を入れるなど，臨機応変に話し合いを進めていけるようにする。 →これも基本的に司会者の判断に任せる。最終的には，「この文章から学べることは何か」という課題に関する結論が出るように進めていく。
終末	7分	3　話し合いを踏まえた上で，自分の考えをワークシート（振り返りシート）にまとめ直す。 ○自分も「想定される他者への反論」を入れることで文章の説得力を高めてみたい。 ○自分は倫理的な側面から「種の保全」について考えていたけれど，筆者の「人間への恩恵」という考え方も取り入れたい。	・観点を意識しながら，振り返りシートに本時の学びを記入させる。 →振り返りシートの項目を意識させることで，発揮した見方考え方が自分の文章に活かされるようにする。 **評価方法** ワークシート（振り返りシート）の記述